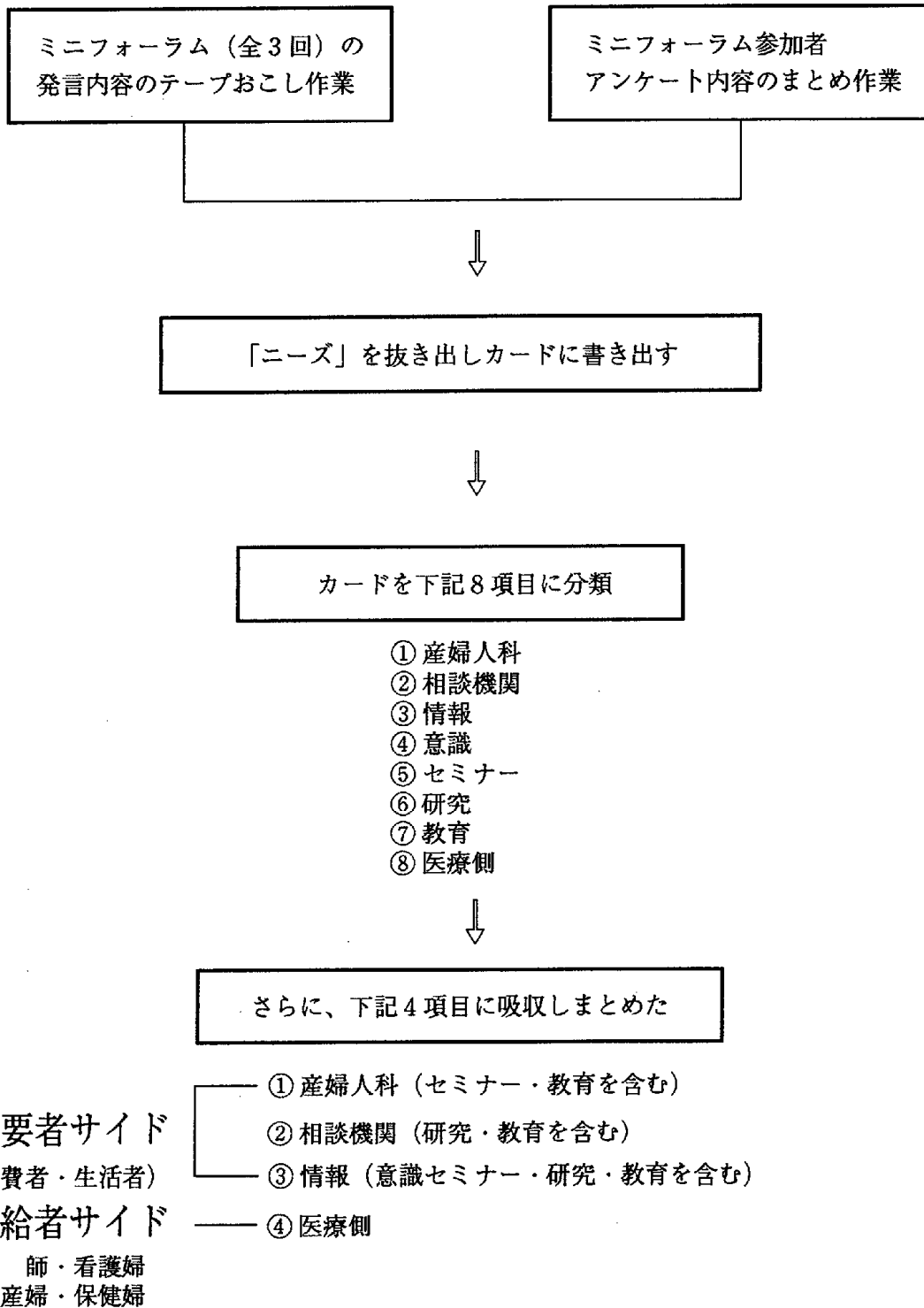
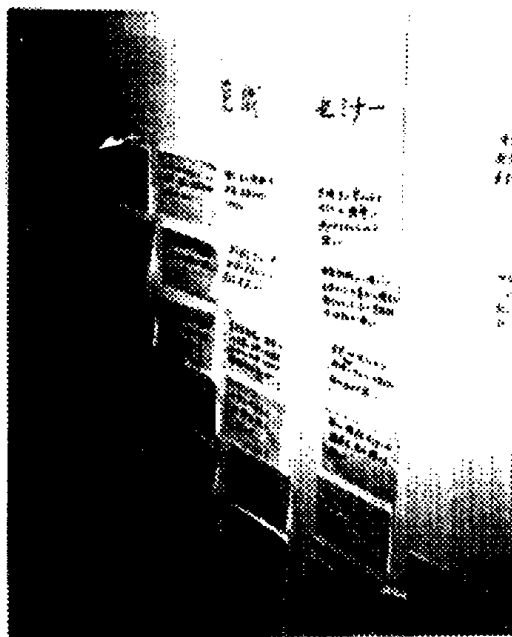
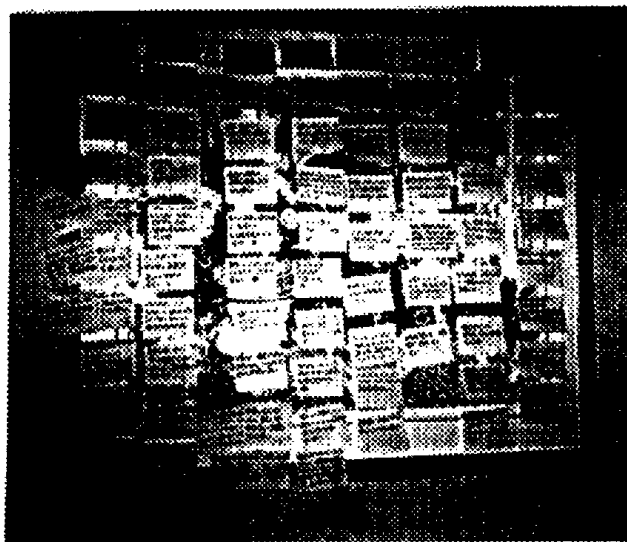
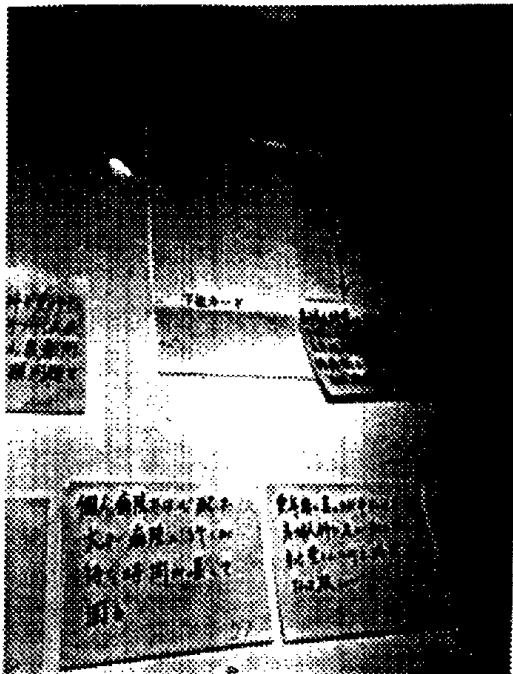


ニーズ構造分析の流れ



★今回は需要者サイドについてレポートしました。



相談機関

[女性のための総合的な相談機関が欲しい]

- 1 産婦人科だけでなく、カウンセリングルーム、神経科の医者とのネットワークが欲しい
加えて地域の保健婦の生活面からの取組が望ましい
- 2 更年期の女性のケースワーク的な問題を包括的に扱う場所が欲しい。
- 3 病院と診療所の機能分担、そして連携を強化して欲しい
- 4 医師と患者の間が欲しい
- 5 ホームドクター的な何でも相談できる場があり、そこから様々な所へ相談できるシステムを作りたい
- 6 色々な情報が提供出来て、いい意味での井戸端会議ができる場所が欲しい
- 7 メンタルなカウンセラーによる相談室の設置により、治療法などをふりかける場が欲しい
- 8 更年期についてアドバイスしてくれる機関が身近に欲しい
- 9 人間は弱いので生き方に迷うこともある。その時に支えてくれる相談機関が欲しい
- 10 検診、相談、情報交換などが総合的にできるセンター形式の場が欲しい
- 12 婦人科検診がひと通り出来、乳癌検診もひと通り出来、医療と相談、お互いの情報の提供、交換の出来るトータルな場が欲しい
- 13 「更年期」を口にするわりにその時の相談機関を知らない
- 14 産婦人科は「忙しそうで話を聞いてくれない」「症状が産婦人科かどうかわからない」というようなことで、カウンセラー機能を各地に作って欲しい
- 15 男性、女性が気軽に受けられる「産婦人科」でない、もっと広い概念でのトータルヘルスケアの機関が欲しい
- 16 医療にかかる前の体、心、行動などの面から気軽に相談できる場を確保して欲しい
- 17 更年期問題の正しい情報提供と相談の場が欲しい
- 18 治療に行ったときに、きちっと自分の体に対する正しい情報を伝えて欲しい

- 19 更年期の身体のケアと共に心のケアが欲しい

[予防医療を充実させて欲しい]

- 1 病気になって治療するのではなく、病気にならないための医療機関であり得る制度になって欲しい

[検診項目に更年期障害を組み込んで
充実させて欲しい]

- 1 カルシウムの減少という症状を定期検診の中に組み込んで欲しい
- 2 人間ドックで癌検診の他に骨粗そう症の検査をして欲しい

[仕事を優先させたい]

- 1 医療の夜間システムが欲しい

[行政にも中高年の健康管理に関して
バックアップして欲しい]

- 1 3分診療を行政レベルで改革して欲しい
- 2 公的機関でも更年期問題を取り上げ、快適に更年期が過ごせるよう援助するシステムが欲しい。そのために人材の育成もして欲しい

[企業内に働く女性の医療的な

バックアップが欲しい]

- 1 企業の中に“病院へ行く程でない”“時間がとれない”という人を受け止める施設が欲しい
- 2 働く女性のカウンセリングの場として企業の医務室の役割を考えなおして欲しい
- 3 会社の検診で産婦人科系のものもやって欲しい
- 4 働く女性を対象にした時間設定、出張システムが欲しい

産婦人科

[納得して受診したい]

- 1 内診台の必要性を理解させて欲しい
- 2 医療機関と患者の相互理解が得られるよう努力をして欲しい
- 3 “まず内診台”というのがいやなので、産婦

人科へは行きたくない

〔気楽に相談、受診したい〕

- 1 産婦人科の女医さんが増えて欲しい
- 2 受診についてアドバイスをしてくれるホームドクターが身近にいて欲しい

〔仕事を優先させたい〕

- 1 オフィス街に簡単な診療設備のある産婦人科が欲しい
- 2 夜遅くまでやっている病院が欲しい
- 3 診療時間を1週間に1回、1カ月に1回でも良いので、20時までにして働く女性が行きやすくして欲しい

〔中高年に門戸を広げて欲しい〕

〔妊娠していると思われたくない〕

- 1 産婦人科を「参加」「婦人科」と分けて欲しい
- 2 産婦人科ではなく、産科・婦人科の窓口を別にした外来病棟を作って欲しい
- 3 産婦人科の先生の専門（「産科」か「婦人科」かという）がわかるようにして欲しい
- 4 更年期の真っ直中にいても産婦人科に足が向かない。もっと堂々といける場所になって欲しい

〔効率的に受診したい〕

- 1 産婦人科を「産科」「婦人科」と分けて欲しい
- 2 産婦人科ではなく、産科・婦人科の窓口を別にした外来病棟を作って欲しい
- 3 産婦人科の先生の専門（「産科」か「婦人科」かという）がわかるようにして欲しい
- 4 更年期の真っ直中にいても産婦人科に足が向かない。もっと堂々といける場所になって欲しい
- 5 個人病院では心配で大きい病院へ行くが、待ち時間が長くて困る

〔患者の病気を見落とさず、確実に

専門家に振り分けて欲しい〕

- 1 婦人科の先生は自分の専門の範囲内で物事を解決しようとしなくて、問題を手放す勇気を持って欲しい

- 2 産婦人科、心療内科を受診しても更年期障害で片づけられ、疾病の発見が遅れる。医療問題をと並行して更年期問題を考えて欲しい

〔女として年齢や症状に関係なく一つの

「科」でトータルに診て欲しい〕

- 1 産婦人科学は出生前から老年まで女性の全生涯を対象にするということを視野に入れ研究面でも診療面でも他科との協力体制を確立して欲しい
- 2 妊娠、出産以外でも女性の身体や精神までみってくれるドクターが欲しい
- 3 産婦人科を「女性科」として欲しい

〔屈辱感なく受診したい〕

- 1 診療の方法を変えて欲しい（内診台がいや）
- 2 内診台があって、足を広げて、カーテンがあって・・・その時の屈辱感がいやだ。人間性を否定されたようでとてもいやだ

〔傷つきたくない〕

- 1 受診する人の心理を察して、産婦人科医及びそこに従事している者の心得を考えて欲しい
- 2 産婦人科の先生は若い女性に対しても中高年の女性に対しても優しく相談にのって欲しい

〔更年期である自分よくわかってもらいたい〕

- 1 “更年期”を理解していて専門的に診てくれる病院が欲しい
- 2 今の産婦人科には更年期を相談する受入れ体制が出来ていない
- 3 “更年期外来”という受け皿をもっている病院が欲しい

意 識

〔老後を楽しく過ごしたい〕

- 1 「更年期」は「老いの始まり」の時期として、男性についても別々に捉えるのではなく「ヒトの老い」として考えていきたい
- 2 更年期を含めて“老い”に価値を見出せないような考えを変革したい
- 3 更年期を自然に受け入れられる精神力をつけた

い

- 4 閉経50才として死亡まで約30年。この時期を楽しく生きる工夫をしたい
- 5 女性の生き方で女として老年期に向けて活力ある生き方をイメージしていきたい

【主体的に健康管理をしたい】

- 1 自分の健康を自分で管理する方向に持っていきたい
- 2 女性のライフサイクルを一から見直し、自分の健康管理に目覚めてもらいたい
- 3 女性は受け身でなく自分の人生の中の一時期の選択肢として「更年期」を受けとめて欲しい

【更年期のイメージをよくしたい】

- 1 更年期障害の“障害”という言葉は自然の経過であるにもかかわらず、マイナスの印象を与えるので良くない
- 2 「更年期」ではなく【婦人成人病】という幅広くとらえた言葉にして欲しい
- 3 更年期という言葉をもっと使って欲しい

【更年期を皆に理解してもらいたい】

- 1 女性の身体についての知識、自分の身体について知ることから始めて、女性、そして男性が知り、理解を深めて欲しい
- 2 皆でもっと認識を共有出来るようになりたい
- 3 全ての人々が一度は通る「期間」という形で市民権を持たせたい
- 4 性に対する社会の壁を感じる。もっと自然に語り合え、お互いに尊重できる関係になりたい

【医療と患者の関係を良くしたい】

- 1 医療側も病気治療、医療技術のみでなく心の触れ合いを、共感を思いおこし、自分が受ける側に立つ。受ける側にも病院の有り方を理解できるような方法を考えて欲しい
- 2 医師や病院の意識、システム、変革、受診者

研 究

側の意識づくりが必要

【学際的な研究を知りたい】

- 1 更年期問題は社会構造の中で変化してきたものなので、社会学的、文化人類学的な研究を知りたい

【更年期障害の予防を知りたい】

- 1 予防医学の範囲を女性の更年期障害というところまで拡大して欲しい

【婦人科だけでなくトータルに研究して欲しい】

- 1 更年期は産婦人科だけでなく色々な分野で考えて欲しい
- 2 更年期の問題に眼科、耳鼻科といった問題も加えて欲しい
- 3 婦人科だけでなく広い分野の研究が進んで欲しい

教 育

【カウンセリングマインドのある医師が欲しい】

- 1 全人的医学、医療をめざすなら医療教育の中に心身医学的面、カウンセリングテクニックなどにもっと力を入れて教育して欲しい

【カウンセリングマインドのある保健婦、助産婦が欲しい】

- 1 保健所の助産婦、保健婦を教育してカウンセラーとして育成して欲しい

【早い時期から性教育、健康教育をやりたい】

- 1 男女とも思春期前期に正しい「科学的な性」の教育をして欲しい
- 2 早い時期から「性」について語られるような教育（家庭でも学校でも）が必要
- 3 性教育の正しい指導者を育てていくことをトータルな立場から位置づけることが必要

〔思春期から更年期までを心身両面から
早期に知りたい〕

- 1 メンタルな心の病も、もっと認識できる機会を男女同時に持つために、中学生の頃に思春期と更年期をセットで教えて欲しい

〔更年期問題を皆に理解してもらいたい〕

- 1 マスコミが更年期障害ということをもっと普通にもっと正しい形で情報として流していく必要がある
- 2 職場でも地域でも、もっとオープンに女性の身体、心について語れる正しい情報が使えられて欲しい
- 3 女性に関する研究をやさしく伝える情報機関が欲しい
- 4 体の変化についての正確な情報が欲しい
- 5 「更年期」という言葉がもっと堂々と話せる環境づくりをするためにマスコミに働きかけて欲しい
- 6 情報を得る側は（一つではなくて）色々な情報、色々な分野の情報を流して欲しい
- 7 更年期というのは女性だけの問題ではなく、男性にも広く知らされてお互いに共通に理解し合いたい
- 8 女性の身体について良く知っている婦人科の先生にもっと一般にそれについて知らせることをやって欲しい
- 9 もっとマスコミレベル、キャンペーンレベル、ドクターの学会レベルでも普通の女性たちの感性が届くような仕組みが欲しい

セミナー

〔自己啓発がしたい〕

- 1 情報提供されるばかりでなく問題を掘り起こすための自己啓発の場がほしい

〔皆にわかってもらいたい
（異業種・異世代・異性）〕

- 1 女性同士でも世代や職業を越えて語ってほしい。
- 2 夫婦ともに受けられるセミナーが頻繁に開か

れるようになってほしい

〔身近な場所で健康教育の機会が欲しい〕

- 1 企業・地域でもセミナー、研修の中にもっと日常的に組み込んで欲しい
- 2 体に関するセミナーや講座をもっと開いてほしい

〔医療システムの一環として

健康教育の機会が欲しい〕

- 1 健康診断の一環として女性セミナーや集まりの機会を持つなどしてもっと予防的なシステムが欲しい
- 2 保健所などで保健婦、栄養士といった人から更年期についてのガイダンスのようなものが男女問わず欲しい

〔医療と患者の関係を良くしたい〕

- 1 医療を医者と患者両方で手をつないでより良いものにして欲しい
- 2 婦人科の内診に対する偏見をなくし、自ら進んで婦人科医を訪れて欲しい
- 3 更年期の受け皿が出来てはいないが出来るだけ自分自身の健康管理のために婦人科医を訪れて欲しい
- 4 医者に対して（患者は）オープンな気持ちで話して欲しい

〔効率よく診察をしたい〕

- 1 受診の時（患者は）自分のことだけでなく周りの状況も考えて欲しい
- 2 産婦人科医の外来では更年期についてゆっくり話をきいての問題解決はできない。
- 3 自分の症状は何処へ行けばいいかということに適切な病院を選んで欲しい
- 4 インフォメーションが不足しているため十分な根拠もなく大病院に受診が集中している現状を変えたい

〔適切な報酬がほしい〕

- 1 カウンセリング・保険点数・診療料金など行政サイドからの女性保健に関するサポートが欲しい
- 2 カウンセリングの点数は300点。1時間きいて300円にしかならない。インフォームドコンセントに対する点数の裏付けがほしい

- 3 現在の医療制度、保険制度の改革が必要
- 4 話を聞いてもらうこと、助言を得ることに報酬が必要というコンセンサスが日本では育っていない

〔専門家同志の横のつながりをつくりたい〕

- 1 心の問題、思慮期のことで悩む人に医師、心理の人とのネットワークで解決できるように支援したい
- 2 医師間のコミュニケーションが欲しい

〔医療・地域・行政のパイプ役になりたい〕

- 1 保健婦として医師と患者のパイプ役になってコーディネートしたい。
- 2 健診センターは更年期に関する問題で抵抗なく訪ねられる受け皿を作りたい
- 3 保健所などで更年期を迎える人達を援助したい
- 4 更年期の予防に関してもっと広めていきたい
- 5 行政のニーズを発掘するため地域でニーズを把握する仕組みを持ちたい
- 6 保健所でのガン検診などの時に更年期についての話をもっとしたい
- 7 成人検診や健康教育に更年期問題をテーマに取り上げ皆と一緒に考える教室に取り組みたい
- 8 カウンセラーに対する期待に応えられる力を育てていきたい
- 9 町の薬剤師として身近な相談窓口となって役にたちたい

〔女性のトータルライフケア

(健康教育)の体系化が必要〕

- 1 「女性の科学」を更年期障害を通じて形づくっていききたい
- 2 健康教育の体系化と充実が必要
- 3 更年期が人生全体のどの位置にあるかの知識を持つことが大切なので性教育として実現し、いつでもどこでも話せるようにしたい

〔患者に正しい知識を持っていて欲しい〕

- 1 女性という存在にもっと誇りをもってほしい

情報

充実した生活を
送りたい

主体的で
ありたい

前向きに生きて
いきたい

受け入れて
もらいたい

自分で健康
管理をしたい

自分で選択
したい

(更年期である、
更年期を迎える)
自分を
理解したい

“更年期”の
イメージを
良くしたい

自分を理解して
もらいたい

更年期を皆に
理解して
もらいたい

健康手帳や母子
手帳に更年期に
ついての記入欄
や相談機関の
案内を記載して
ほしい

産婦人科を選ぶ
ための広い情
報や選択肢
がほしい

マスコミが更年期障害ということをもっと普通に正しいカタチで情報を流してほしい	正しい情報を得るために電話相談やカウンセリングやガイドブックなどがほしい	更年期に関する本がすぐ身近な公民館などで検索できるようなシステムがほしい	情報提供されるばかりでなく、自己啓発の場がほしい
--	--------------------------------------	--------------------------------------	--------------------------

母子手帳の
ような“更年期
のすこしかた”
等の本を配布
してほしい

更年期の情報は“更年期障害”だけでなく“性のモラル”や“老いの性”などにも広げてほしい	更年期に関する雑誌がほしい	からだに関するセミナーや講座をもっと開いてほしい
---	---------------	--------------------------

「更年期」という言葉がもっと堂々と話せる環境づくりをしてほしい

更年期障害の「障害」という言葉を変えてほしい

雑誌や新聞の連載やポスター等で更年期の問題について良い触発をしてほしい

女同士でも世代や職業を越えて更年期の問題を語りた

女性の更年期を男性にも広く知ってほしい

職場でも地域でももっとオープンに女性のからだや心について語り、正しい情報を知りたい

中学生の頃に男女同時に思春期と更年期についてセットで教えてほしい

相談機関

充実した生活を
送りたい

安心して
生活したい

病気に
なりたくない

いつでも、どこ
でも社会的にサ
ポートされたい

予防医療を充実
させてほしい

行政に中高年の
健康管理に関し
てバックアップ
してほしい

企業内に働く
女性の医療的な
バックアップ
がほしい

気軽に相談でき、
検診もできる女性
のための総合的な
相談機関がほしい

健康診断に更年期
障害について
を組み込んで充
実させてほしい

3分診療を
行政レベルで
改革してほしい

公的機関でも更年期
問題をとり上げ、快適に更年期
がすごせるように
援助するシステム
を作してほしい

企業の中に病院
へ行く程でもない人や忙しくて
病院へ行けない人を受けいれる
場所がほしい

産婦人科医だけで
なく神経科医や地
域の保健婦とのネ
ットワークをもつ
たカウンセリング
ルームがほしい

産婦人科検診が
ひととおりできて
医療機関と相談
機関が情報交換の
できるトータルな
場所がほしい

いろいろな情報
が提供される
井戸端会議が
できる場所が
ほしい

産婦人科へ行く
前のカウンセ
ラー機関を各地
に作してほしい

生き方に迷った
時に支えてくれ
る相談機関が
ほしい

病気になってか
ら治療するの
ではなく病気に
ならないために
利用できる医療
機関制度になっ
てほしい

健康診断の一環
として女性セ
ミナーや集ま
りなど予防
の機会をもつ
システムが
ほしい

定期検診の中
にカルシウムの
減少という症
状を組み込
んでほしい

